

小論文

- I 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

（日本経済新聞東北経済面（2024 年 5 月 1 日）「宮城の養殖銀ザケ 正念場」を一部改変）

問 1. 本文は、宮城県で生産されている養殖銀ザケに関する記事である。この文章を読み、重要な内容について 150 字以内で要約しなさい。要約に際しては、問題点について記述すること。

問 2. 下線部①について、養殖で生産されている銀ザケは海水温が上昇すると生息することができなくなるため、宮城県では毎年 10 月頃に沖合のいけすに稚魚を放流し、3 月から 7 月までの間に市場に向けて出荷されている。しかし、近年は、海水温の上昇に伴って様々な影響が出ている。海水温が上昇する状況において、宮城県内で養殖銀ザケの生産を続けていくためには、どのような考え方に基づいてビジネスを推進していく必要があるだろうか。あなたの考えを 300 字以内で述べなさい。

問3. 下線部②について、日本国内にはチリ産の銀ザケに加え、ノルウェーなどの諸外国からも養殖のサーモンが輸入されている。輸入された養殖のサーモンは、大手の回転寿司チェーンのすしネタなどに使用されており、近年ではマグロを上回る人気のネタとなっている。このような状況において、国内生産の85%を占める宮城県産銀ザケの生産に携わる関係者は、海外から輸入されるサーモンとの間でどのように差別化を図っていくべきであろうか。あなたの考えを350字以内で述べなさい。

II 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

（日本経済新聞東北経済面（2024年7月6日）「社会課題解決 DXで挑む」を一部改変）

問 1. 下線部①について、デジタルトランスフォーメーション（DX）とは、2004年に「情報通信技術（ICT）の浸透が人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させること」と定義された言葉である。この定義のもとで、あなたの身の回りの生活におけるDXの具体例をあげ、どのような変化が起こったかを150字以内で述べなさい。

問 2. 下線部②について、ICTの活用により学校の授業などの学習方法は大きく変化し、様々な教育サービスが生み出されている。ICTを活用した学習方法は、従来の学習方法と比べてどのような点が変わったであろうか。またその変化によって生じるメリットとデメリットにはどのようなものがあるか、あなたの考えを300字以内で述べなさい。

問3. 下線部③について、日本の各地で様々な地域課題が顕在化してきている。あなたが着目する地域課題を2点あげ（少子高齢化と人口減少を含めてよい）、それぞれの課題に対しICTを活用してどのような対策が考えられるか。あなたの考えを350字以内で述べなさい。

【出題のねらい】

受験生の現代社会への知識と理解度、論説文を読み取る力、指示に応じて論理的な文章を構成する力、さらに、それらをもとにして社会問題に対してどの程度論理的かつ共感的な想像力を働かせられるかを、考査する。

I

問 1

宮城県は、養殖銀ザケの国内生産量の 85%を占める産地であるが、近年は海水温が上昇した影響を受け、生産量が減少している。また、チリなどの海外諸国から輸入品との間で価格競争が進んでいる。宮城県産の養殖銀ザケは、品質改良がされており、ブランド価値を高めてきた。今後はブランドを磨き続けることが必要である。(148 字)

問 2

海水温の上昇など、自然環境の変化に対して人間は抗うことができない。このような状況において宮城県で銀ザケの出荷量を拡大させることは難しいが、マーケティングにおいて鮮度の良さをアピールするなど、量よりも品質面に関する優位性について伝達していくことを強化していく必要がある。また、生産量が減少している状況を見込むと、銀ザケの養殖に取り組む新規事業者を増やしていくことも重要である。ただし、新規事業者を増やしていくためには、従来までよりも高値で取引できるようにブランド力をさらに高めていかなければならない。さらに、地域で連携しながら加工品の開発に力を入れ、付加価値を高めていかなければならない。(293 字)

問 3

国内の市場において、海外から輸入されている養殖サーモンとの間で差別化をはかるためには、国産品のメリットを強調していく必要がある。国産の養殖サーモンは、水揚げから販売に至るまでの時間が輸入品よりも短いため、鮮度については輸入品よりも高い。また、冷凍せずに流通させることによって高品質のまま販売することも可能である。宮城県産の銀ザケのブランド価値をさらに高めていくためには、鮮度の良さを強調した販売方法を検討していく必要があると考えられる。また、国内においてすしネタなどの生食用食材としての需要が高まっていることを考慮すると、回転寿司の事業者などのニーズに基づいて加工するなどの対応も求められる。加工の対応に際しては、水産加工会社とも連携し、産地全体で取り組みを推進していくべきであろう。(342 字)

II

問1

例としてセルフレジの浸透がある。客は自分で商品をスキャンし、支払いを済ませることができるようになった。これにより、待ち時間短縮やレジ打ちの人員削減が可能となった。さらに、値札のタグなどに埋め込まれたチップによってスキャンすることなく買い物を済ませられるレジもあり、買い物の利便性がさらに向上した。(149字)

問2

従来の教科書や黒板を使った授業では、対面形式で教師が語る一方向の授業になりがちであるのに対し、ICTを活用した学習方法、例えばタブレットを使った授業では、リアルタイムでの個別対応や資料共有が可能である。また、インターネット上の情報にアクセスできるため、最新の知識や多様な視点を学ぶことができる。

この変化によるメリットとしては、生徒は自分のペースで学習を進めることができ、教員も個々の理解度に応じた指導が可能となることが考えられる。

一方で、デメリットとしては、技術的なトラブルが発生する可能性がある点があげられる。また、ICTに依存しすぎると、対面でのコミュニケーション能力が低下することも懸念される。(300字)

問3

1つ目に、高齢化に伴い医療・介護の需要が増加する一方で、医療を提供する人手が不足している課題を考える。この課題に対しては、診察やカウンセリングをオンラインで行う遠隔医療を充実させることで、医者や看護師が遠方にいても患者が医療サービスを受けることのできる体制を整えることができる。

2つ目に、人口減少により地域の経済活動が低迷し、若者の流出が進んでいる課題を考える。流出を防ぐためには、地域産業の認知を高め、地域で新たなビジネスチャンスを創出することが必要である。そのために、特産品や観光資源をオンラインプラットフォームで発信し、地域外からの購買や観光客の誘致を図る。また、新たなビジネスを創出する環境を整えるためにリモートワークを推進し、都市部からの移住を促進することも重要である。(340字)

(上記の他にも、次のような内容での記述があれば加点する。)

・都市部と地域での教育格差を埋めるために、オンライン教育プラットフォームや遠隔授業を導入し、地方の学生にも質の高い教育を提供する。

・人口減少により地方の公共交通機関の利用者が減少し、維持が困難になるケースに対して、AIによる需要予測を導入して、効率的な運行を図る。